

Title	気持ちを伝える手紙形式のガイドマップの提案：静岡県伊東市を事例として
Sub Title	
Author	中野, えみり(Nakano, Emiri) 小川, 克彦(Ogawa, Katsuhiko)
Publisher	慶應義塾大学湘南藤沢学会
Publication year	2013
Jtitle	交通運輸情報プロジェクトレビュー No.22 (2013. ) ,p.19- 23
JaLC DOI	
Abstract	観光地などのガイドマップは観光スポットや有名な店, お土産などの紹介が多く, どのガイドマップも非常に類似している。このことは, どこへ行っても同じという印象を人々に与えかねず, その場所へ行く動機を損ねてしまう問題があると言える。本稿ではこのような問題を解消し, 人々の動機の喚起につながるようなガイドマップ「MAPletter(マップレター)」を提案するとともに, その作成方法ならびに利用方法を紹介する。MAPletterはパターン・ランゲージという論理構造を利用して気持ちと場所をつなげたことで, その時の気分に適する場所を案内することができる。さらに, 論理構造により生まれた文脈を手紙にしたことで, このMAPletterを人に贈ることが可能となり, 気持ちを伝えると同時に旅を勧めることができる。
Notes	2013年度慶應義塾大学JR東日本寄附講座報告書 慶應義塾大学交通運輸情報プロジェクト その1: JR東日本寄附講座担当教員の活動報告
Genre	Technical Report
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO92001006-00000022-0019">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO92001006-00000022-0019</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 気持ちを伝える手紙形式のガイドマップの提案

## —静岡県伊東市を事例として—

中野 えみり 小川 克彦

**概要** 観光地などのガイドマップは観光スポットや有名な店、お土産などの紹介が多く、どのガイドマップも非常に類似している。このことは、どこへ行っても同じという印象を人々に与えかねず、その場所へ行く動機を損ねてしまう問題があると言える。本稿ではこのような問題を解消し、人々の動機の喚起につながるようなガイドマップ「MAPletter(マップレター)」を提案するとともに、その作成方法ならびに利用方法を紹介する。MAPletter はパターン・ランゲージという論理構造を利用して気持ちと場所をつなげたことで、その時の気分に適する場所を案内することができる。さらに、論理構造により生まれた文脈を手紙にしたことで、この MAPletter を人に贈ることが可能となり、気持ちを伝えると同時に旅を勧めることができる。

### 1. まえがき

現在、観光地で一般的に利用されているガイドマップ(例えば[1])は、観光スポットや有名な店、お土産などの情報を写真と共に事細かに紹介している。あるいは、その土地の地理を数値的に表しているものが多く、どの場所も同じ雰囲気という印象を拭えない。例えば、本稿で取り上げる伊東市は、熱海や伊豆高原に隣接しているが、この辺りのガイドマップの多くは温泉とその他の観光名所、お土産の紹介に偏っており、どれも非常に類似している。このことは全国各地のガイドマップでも見受けられるだろう。換言すれば、既存のガイドマップは各地域の特色を反映したガイドマップではないということだ。これは「どこへ行っても同じ」という印象を人々に与えかねず、その場所へ行ってみたいという動機を損ねてしまう問題があると言える。そこで、本稿では「その場所へ行ってみたい」という人々の動機につながるようなガイドマップを提案する。つまり、人の気持ちと場所の特性をつなげ、旅への意欲を喚起させる、新しいガイドマップを生み出す試みなのである。

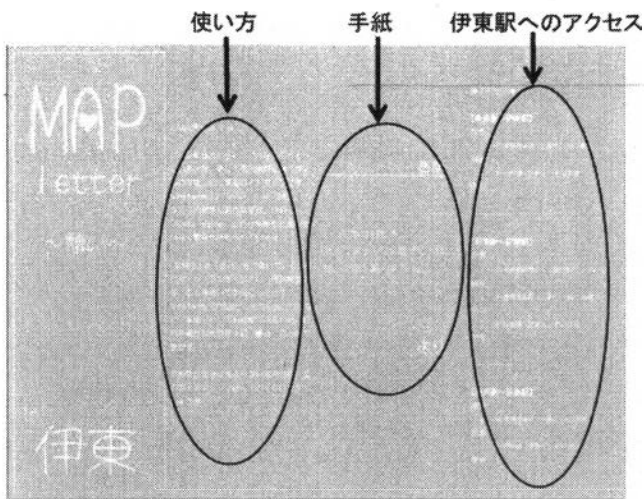
さて、気持ちと場所をつなげるにあたって利用したのはパターン・ランゲージ[2][3][4][5][6]である。パターン・ランゲージとは、1970年代後半、建築家のクリストファー・アレグザンダーが提唱した、いわば物事に対する問題発見・問題解決のための理論である。繰り返し出現する状況や問題に対して、それらを上手く解決する「秘訣」を導き出すための論理構造だ。アレグザンダーは1977年、[2]の中で、253個のパターンをその実用例と共に紹介している。それらは主に建築や都市計画の分野で用いられ、個々の建築の要素から街の景

観に至るまで、あらゆる規模の大きさのパターンが存在するが、一つのパターンは、どのような状況下でどのような問題が生じやすく、それをどのように解決したらいいのか、という一連の流れで構成されている。

この問題発見・問題解決の論理構造であるパターン・ランゲージを、気持ちと場所をつなぐツールとして利用することとした。これにより、そのパターンを使って旅に行きたいという文脈、さらに動機を喚起するガイドマップを作ることを本稿の目的とする。

### 2. 「MAPletter」の提案

気持ちを伝える手紙形式のガイドマップ「MAPletter」を提案する(図1)。コンセプトは「人に贈りたいガイドマップ」だ。このMAPletterのMAPは、もちろん「地図」という意味もあるが、「気持ち」「と」「場所」を表す「Mind」「And」「Place」の意味も含む。MAPletterは5つの気持ち「憩い」「なつかしさ」「放浪」「解放」「洗練」を表し、それぞれ試作した。



(a)「憩い」の MAPlette の表面



(b)「憩い」の MAPletter の裏面

図 1 「憩い」の MAPletter (続き)

MAPletter の最大の特徴としては、気持ちと場所の接続においてパターン・ランゲージを用いていることである。それによって気持ちと場所がつながり、その時の気分に適した場所を案内することができる。パターン・ランゲージは問題発見から問題解決を導く論理構造である。その論理構造に従って気持ちと場所をつなげることは説得力の獲得につながる上、その時の状況から適する場所を導き出す際に段階を踏んでいるために、流れ、つまり文脈が生まれる。

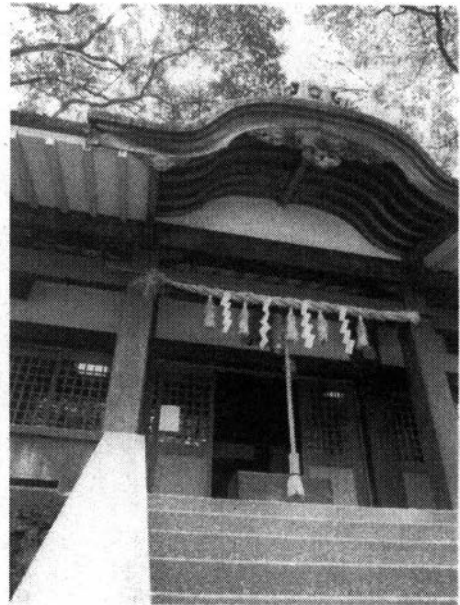
MAPletter ではその文脈を「手紙」にした。「letter」というのはその意味である。MAPletter を人に贈ることが可能で、普段なかなか気持ちを伝えられない人に「手紙」という形で「旅」を勧めることができると考えられる。

### 3. 「MAPletter」の作成方法

MAPletter 作成のためには、「人の気持ち」と「場所の特性」と「場所の要素」の 3 つの関係性を求めることが必要である。本章では、伊東市でフィールドワークを行い、その結果をもとにして関係性を導き出すなどして完成させた MAPletter のプロセスについて述べる。

#### 3.1 フィールドワーク

慶應義塾大学の小川克彦研究会・場所サブゼミのメンバー 6 人(筆者を含む)の協力を得て、静岡県伊東市でフィールドワークを行った。JR 伊東駅を中心として、各人が自由に歩き、「行ってみたい」と思った場所の写真を撮影してきてもらった(図 2(a),(b))。また、予め 6 人に配布しておいた伊東市の地図上に、撮影場所がわかるよう印をつけてもらった。撮影枚数に限りはなく、所要時間は 2 時間程度である。



(a) 葛見神社の本堂



(b) 松川遊歩道の石畳

図 2 フィールドワークで撮影した写真の例

### 3.2 言葉の抽出

フィールドワークの後、各人が撮影してきた写真を基に、①「どのような場所だったか」、②「その場所には何があった」、③「その場所に行くときどんな気持ちになったか」という3つの質問を、撮影したすべての場所に対して各人に行なった。これらの質問をすることで、それぞれ①「場所の性質」、②「場所の要素」、③「人の気持ち」に関する言葉の抽出を試みた。

### 3.3 KJ法

3.2.の言葉の抽出により得られた単語を全てポストイットに書き出し、①「場所の性質」、②「場所の要素」、③「人の気持ち」ごとにKJ法を行った。①と③に関しては、似たような意味の言葉同士をまとめることで、より適切な表現に変えた。②に関しては、KJ法の特徴を活かし、感覚的に近いと感じるモノ同士でまとまり(以下、ブロック)を作るとともに、それぞれのブロックがどのような感情を抱かせるのかを考え、ブロックごとに名前をつけた(図3)。その結果、全部で16パターンに集約した(付録を参照)。

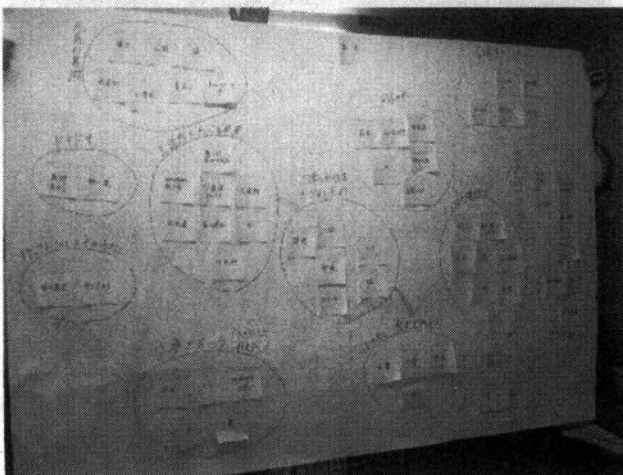


図3 KJ法

### 3.4 パターンの作成

KJ法で適切な言葉の表現に変えた「場所の性質」「場所の要素」「人の気持ち」におけるブロックをそれぞれ組み合わせ、パターン・ランゲージの論理構造に置き換えた。

1つのパターンは通常、

- ①「Context(状況・状態)」
- ②「Problem(問題)」
- ③「Solution(解決方法)」
- ④「Consequence(結果)」

という4つの要素から成る。これに今回の場合を当てはめて考えると、

- ① どういう気持ち・状態の時に」→人の気持ち
- ② 「どのような状態に陥りやすいか」→人の気持ち
- ③ どのような場所が適するのか」→場所の特性
- ④ 「その場所に行った結果、どのような気持ち・状態になるのか」→人の気持ち

となり、「人の気持ち」は①②④に当てはまることになる。ただし、3.2.において求めた人の気持ちに関する言葉は、あくまで④の結果(Consequence)の気持ちである。①のContextの気持ちを求めるには、Consequenceの裏返しとしての気持ちを考え、それをContextとしてパターンに組み入れる必要がある。また、②のProblem(問題)は①に含まれることが十分に有りうるため、①と②はまとめてContextとする。「場所の要素」はExampleとして、「具体的にどのような場所か」を示すものとして③と④の間に入れる。このようにして、「人の気持ち」と「場所の特性」と「場所の要素」の3つの関係性を求めた。まとめると以下ようになる。

「Context&Problem; どういう気持ち・状態の時に」

→人の気持ち

「Solution; どのような場所が適するのか」

→場所の特性

「Example; その場所にはどのような要素があるのか」→

場所の要素

「Consequence; 結果どういふ気持ちになるのか」

→人の気持ち

### 3.5 手紙(letter)

全16パターンのうち、人が最も陥りやすいであろう状態のパターンを5つ選び、それらをパターンの構造に従って手紙の文章にした後、人に贈る手紙としてより自然な表現に修正した。今回MAPletterに選出したパターンは、「憩い」「なつかしさ」「放浪」「解放」「洗練」の5種類であるが、ここでは「憩い」のMAPletterを例に見ていきたい。パターンの構造に従って手紙を書



いた場合、以下のようになった。

『いつも忙しそうだね。たまには息抜きに、憩いの場所に出かけてみるのもいいかもしれないよ！憩いの場所の目印は・・・川沿いの歩道、白壁、石畳、お寺の本堂、石の階段。』

これをパターン構造に当てはめると、「いつも忙しい」という状態が Context であり、それを解決する Solution が「憩いの場所に出かける」、そしてその場所にある要素の例である Example が「川沿いの歩道、白壁、石畳、お寺の本堂、石の階段」となる。その場所に行った結果としての Consequence 部分はあえて省略する。その場所を訪れた人がどのような感情を抱くかについては断定しない方が良いためだ。

なお、次のように Context「いつも忙しそうだね」を「ゆっくり過ごしてね」というやわらかな提案形に直して書く事もできる。

『いつもありがとう。たまにはゆっくり過ごしてね。憩いの場を案内するね。』

### 3.6 地図(MAP)

一見すると消滅してしまったように見える Example (場所の要素)を、裏面の地図で写真とともに「場所の詳細」として記載した(図1を参照)。

## 4. 「MAPletter」の利用方法

MAPletter はタイトルが記載されている面を表として四等分に折りたたまれており、表面には MAPletter の特徴、手紙、アクセスが順に書かれている(図1)。そのため、手紙の面に MAPletter を贈りたい人の名前と自分の名前を書きだけで、相手に気持ちを伝えると同時に旅を勧めることができる。普段は面倒で手紙を書かない人や、大切な人に思いを伝えたいけれどもそのきっかけがない人、あるいは気分転換のために一人で出かけた人などが利用することが望ましい。

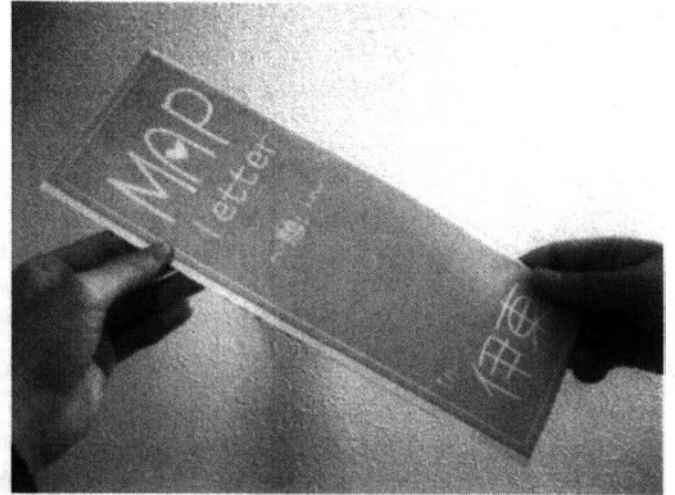


図4 MAPletter を贈ることにより旅を勧める

## 5. 今後の展望と課題

本稿では、気持ちを伝える手紙形式のガイドマップとして MAPletter を提案し、その作成方法ならびに利用方法について述べてきた。今後の展望として、MAPletter が伊東の新たなガイドマップとして定着し、伊東というまちの魅力を全国に発信していくための手段の一つになれば幸いである。また、気持ちを伝える MAPletter によって人と人、人と場所がつながり、人と地域が元気になることを期待する。

今後は、MAPletter の評価実験を行い、場所の特性を表す言葉の適性を調査して修正するとともに、気持ちと場所の整合性も併せて調査していきたい。

## 参考文献

- [1] 吉原商店街振興組合, “吉原商店街ガイドマップ”
- [2] C. Alexander, S. Ishikawa, M. Silverstein, M. Jacobson, I. F. King, S. Angel, A Pattern Language, Oxford University Press, New York, 1977
- [3] C. Alexander, M. Silverstein, S. Angel, S. Ishikawa, D. Abrams, The Oregon Experiment, Oxford University Press, New York, 1975
- [4] クリストファー・アレグザンダー, 建築の新しいパラダイムを求めて, (社)工作舎, 東京, 1989
- [5] クリストファー・アレグザンダー, 時を超えた建設の道, (社)鹿島出版会, 東京, 1993
- [6] 井庭崇, 井庭研究室, プレゼンテーション・パターン, (社)慶應義塾大学出版会, 東京, 2013

## 付 録

表 16 パターンの一覧

	要素	場所の特性	人の特性
1	公園、庭、花、実のなっている木	メルヘンチックな	愛しい気持ちになる
2	高所・高台、坂の上	開放的な	さわやか、すっきり、すがすがしい
3	細い道、路地	心惹かれる	探究心をくすぐられる
4	道にまで置かれた商品、お店の裏側に面した道、ごみ置き場、洗濯物、路地裏、家の裏側、家、住宅街	あたたかい (生活感)	安心する、落ち着く
5	水路、川、街道、アーケード、橋	地元らしい (個性がある)	新鮮味がある、驚く
6	木々、さび、倒れかけの木、草、蔓、鉄の階段、マンション	不気味な	気味悪い、恐い、涼しくなる
7	花屋、ショーウィンドウ、喫茶店、西洋建築、レンガ	心華やぐ	幸せな気持ちになる
8	ベンチ、テント、自営業の文具・書籍店	レトロな	懐かし気持ちになる、子ども時代を思い出す
9	白壁、石畳、寺の本堂、石の階段	憩い	ゆったり、のんびり、のびのび、穏やか
10	「行き止まり」の標識、鉄の柵、ガードレール	静かな、寂しい	寂しくなる、寂寥感
11	海、山	開放的な	さわやか、すっきり、すがすがしい
12	しめ縄、鳥居、碑、神木、お地蔵さん	厳かな	緊張する、鎮まる、畏敬の念を感じる
13	灯籠、あじさい、のぼり	あたたかい (和・日本)	落ち着く
14	商店街、小学校	あたたかい (元気)	安心する
15	橋下	開放的な、 自然豊かな	無心になれる、物思いにふける、のんびりできる
16	アンティーク、木製のドア	あたたかい (西洋的)	落ち着く